

3. 法学部夜間主コースにおける教養・専門教育科目履修時の留意事項

1) 法学部夜間主コースにおける法学・政治学教育の理念

法学部夜間主コースにおける教育は、社会生活を営み職業人として活動する上で必要な視野の広さと法学・政治学的素養を身につけることを目的としています。そして、そうした基本的な目的を前提とした上で、各自がもっている勉学目的や社会生活・職業生活の中で直面する課題への対処に適合した教育を行うこととしています。

2) 教養教育科目の履修方法

教養教育科目については、以下の事項に留意して履修してください。履修計画を立てる時は、『学生便覧』、『教養教育科目履修の手引』、『法学部・経済学部夜間主コース・シラバス』及び『授業時間割』を必ず参照してください。

また、昼間開講の教養教育科目については、『教養教育科目履修の手引・授業時間表』と『教養教育科目シラバス』を参照してください。

(1) 教養教育科目は、4年間のうちに履修することとされていますが、主に第1・2年次において確実に修得することが奨励されます。

(2) 必修科目の法政基礎演習(1単位)及び全学ガイダンス(1単位)は、第1年次に履修してください。

(3) 経済社会のグローバル化が一層進展する中で、法律専門職などのような職業に就く場合でも、外国語の能力、特に国際コミュニケーションにおいて広く使用される英語の能力が求められます。このため、外国語は12～16単位履修し、そのうち英語を8単位以上履修することが奨励されます。「英語(ネイティブ)」は、英語コミュニケーション能力を身に付けるものです。必修科目ではありませんが、全員の履修が望まれます。

また、外国語の外部検定試験で一定の成績を修めると、外国語の単位として認定されます(『学生便覧』25ページ「外部検定試験の学修成果に係る単位認定について(申合せ)」参照)。特に英語の検定試験は、就職試験、法科大学院入学試験等でも考慮される場合が多くなっているため、受験が奨励されます。

(4) 第1年次においては、法政基礎演習(1単位)、全学ガイダンス(1単位)、英語2科目を含む外国語(8単位)に加えて、前後期合わせて4科目(8単位)程度の科目を履修することが望まれます。この場合、第1年次の教養教育科目は18単位の修得が可能となります。

(5) 第2年次においては、英語2科目を含む外国語(4～8単位)に加えて、卒業資格単位数(教養教育科目計32単位)を満たすよう、科目を履修することが望まれます。

(6) 昼間開講の教養教育科目は、10単位まで卒業資格単位とすることができます。

ただし、昼間開講の教養教育科目のうち次の科目は履修できません。

① 法学部の昼間コース学生が履修できない科目

② 導入教育科目(ガイダンス)

③ 汎用的技能と健康科目

情報処理入門(情報機器の操作を含む)

④ 英語コミュニケーション1-1～5-2, ドイツ語, フランス語, 中国語

その他、既修得単位数の履修制限などがありますので、『学生便覧』9ページ「5. 履修登録について」の注意事項をよく確認してください。

3) 専門教育科目の履修方法

専門教育科目については、以下の事項に留意して履修してください。その際、『学生便覧』、『法学部夜間主コース・シラバス』と『授業時間割』を必ず参照してください。

専門教育科目については、法学部昼間コースに開設する専門科目(演習を除く。)及び経済学部昼間コースに開設する専門科目(演習を除く。)を30単位まで(うち経済学部の科目は10単位まで)卒業資格単位とすることができます。昼間のみ開講される科目もあるので、時間的に可能な場合は履修してください。また、経済学部夜間主コース開設の専門科目(演習を除く)も、20単位まで卒業資格単位とすることができます。

履修できる単位数の上限は、夜間主コースにはありませんが、1年間に履修する単位数は44単位を超えない範囲にして、各科目の予習・復習を十分行うようにしてください。

(1) 夜間に開講される第1年次配当の専門教育科目については、法学部生は共通に履修することが望まれます。これらの科目は、進路に関わりなく法学部生として最低限知っておくべき、憲法、民法、政治学等の分野から開講されます。

(2) 第2年次演習(演習I a, 演習I b)(2単位)は、必修ではありません。

(3) 第3・4年次演習(演習II)(2単位)は、第2年次に修得した演習I a, 演習I bと同分野の科目を履修する必要はありません。また、演習IIは必修ではありません。

(4) 第4年次においては、卒業資格単位数(専門教育科目92単位)を確実に満たすように履修してください。

(5) 開講科目の中から、どの科目を優先的に、また、どのような順番で履修すべきかについては、本

テキストに掲載されている「履修モデル」及び「専門分野の学び方」を参考にしながら決定してください。アドバイスが欲しい場合は、演習の先生などに相談してください。

(6) 専門教育科目には、隔年開講科目があります(本テキストに掲載されている「履修モデル」参照)。通常、それらは、ある年度に開講されると翌年度に開講されないこともあるので、そのことを念頭において履修計画を立ててください。